

川越市観光アンケート調査報告書

令和5年(2023年) 1月～12月

監修：川越市産業観光部観光課
作成：一般社団法人 DMO川越

目次

I 観光アンケート調査の統計・分析

| | | |
|---------------|-----|-----|
| 1. 調査の趣旨 | ・・・ | P2 |
| 2. 調査の概要 | ・・・ | P2 |
| 3. 総則 | ・・・ | P2 |
| 4. 調査の結果 | | |
| (1) 出発地 | ・・・ | P3 |
| (2) 性別 | ・・・ | P4 |
| (3) 年齢 | ・・・ | P5 |
| (4) 目的 | ・・・ | P6 |
| (5) 認知方法 | ・・・ | P7 |
| (6) 旅行形態 | ・・・ | P8 |
| (7) 交通手段 | ・・・ | P9 |
| (8) 来訪回数 | ・・・ | P10 |
| (9) 滞在期間 | ・・・ | P11 |
| (10) 観光時間 | ・・・ | P12 |
| (11) 立ち寄り観光地点 | ・・・ | P13 |
| (12) 観光消費額 | ・・・ | P14 |
| (13) 観光客からの要望 | ・・・ | P17 |
| (14) 満足度 | ・・・ | P18 |

II 資料編

| | | |
|---------------------|--|--|
| 令和5年川越市入込観光客数の概要 | | |
| 令和5年川越市外国人入込観光客数の概要 | | |

| | | |
|-----------------|-----|-----|
| 令和5年調査のまとめおよび分析 | ・・・ | P20 |
|-----------------|-----|-----|

I 観光アンケート調査の統計・分析

1. 調査の趣旨

観光アンケート調査は、観光客の出発地、交通手段、立ち寄り観光地、観光消費額などの基本的な動態を把握することを目的としています。

2. 調査の概要

調査期間：令和5年（2023年）1月から12月までの1年間

調査方法：(株)Agoopが提供する位置情報アンケートサービスを活用し、インターネット経由で出発地等の設問を聞き取り。
※一部聞き取りは行わずに、同社の人流分析レポートサービスを活用して抽出したデータがあります。

調査対象：(株)Agoop位置情報アンケートサービスの利用者のうち、調査期間中に観光目的で川越市に訪れたと回答した2,860件のうち有効回答2,666件

3. 総則

○ 調査方法の変更について

令和2年（2020年）までの調査は対面聞き取り調査を行っていましたが、令和3年（2021年）調査からインターネット経由の電子回答に変更を行っているため、令和2年以前の調査結果と単純な比較はできません。

○ 省略表現について

「R5」は令和5年を、「R4」は令和4年を指します。

○ グラフ中の割合表記について

割合は小数点以下第2位を四捨五入して表示しているため、合計が100%にならない場合があります。

○ 回答数について

各項目の回答数は原則1人あたり1件ですが、(4)目的・(11)立ち寄り観光地、(13)要望については複数回答可能としています。

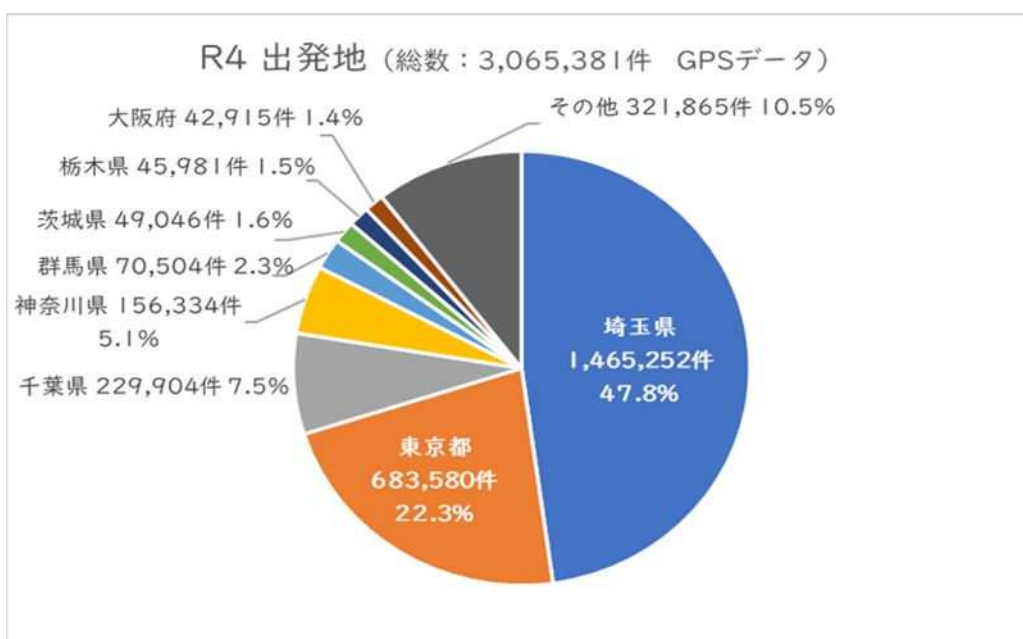
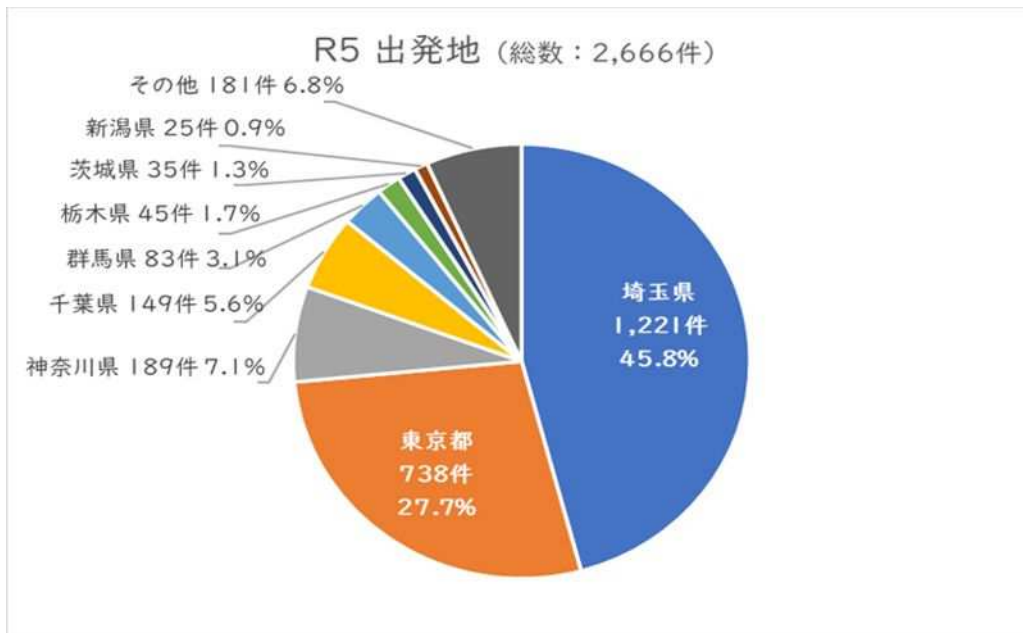
○ アンケートの見直しについて

令和5年アンケートはよりの確に実態を捉えられるよう一部見直しを行い、聞き取り項目をより細分化されているため令和4年以前との単純な比較はできません。

4. 調査の結果

(1) 出発地

令和4年に比べて埼玉県内からの来訪者が占める割合が2ポイント減少しました。



※ 本項目はGPSデータに基づき、「一番街周辺」・「川越氷川神社周辺」・「喜多院周辺」・「伊佐沼周辺」の4エリアに30分以上滞在した観光客(市内共住者・通勤者を除く)を集計しています。

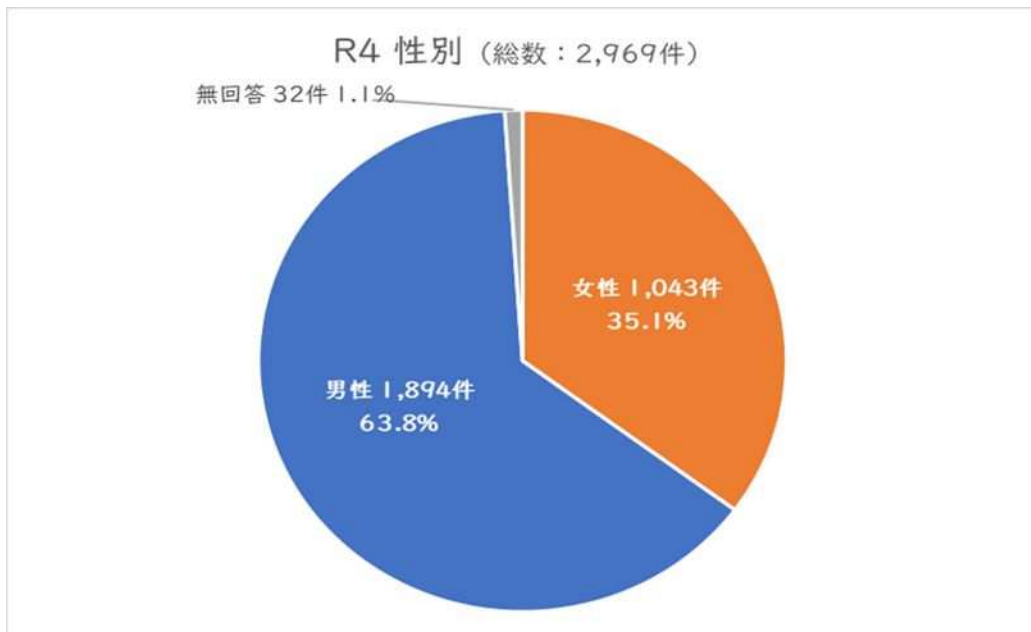
※ 本項目は令和4年までGPSデータを活用していましたが、データの整合性を考慮して令和5年からはWebアンケートの回答を活用しています。

(2) 性別

女性：1,021人（38.3%）

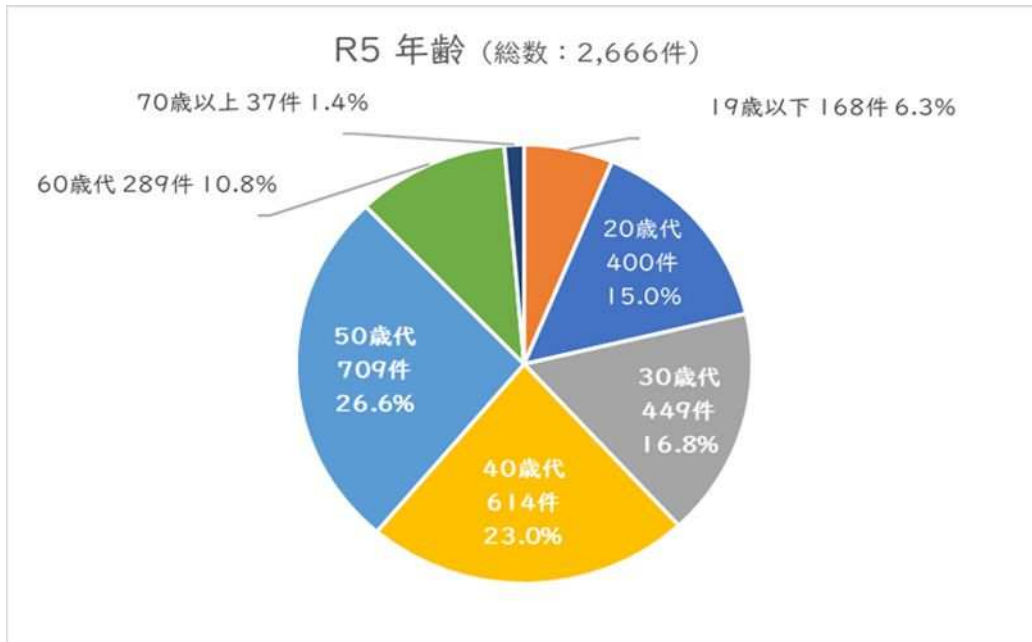
男性：1,610人（60.4%）

令和4年に比べて全体に占める女性の割合が3.2ポイント増加し、男性の割合が3.4ポイント減少しました。



(3) 年齢

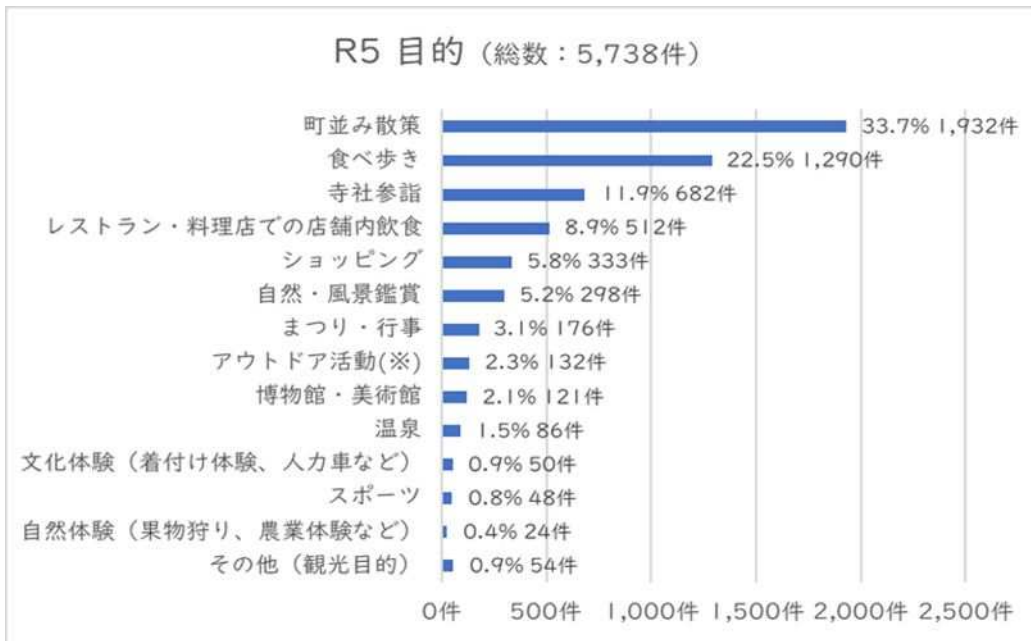
「20歳代」、「30歳代」、「40歳代」の割合が減少し、「19歳以下」、「50歳代」、「60歳以上」の割合が増加しました。



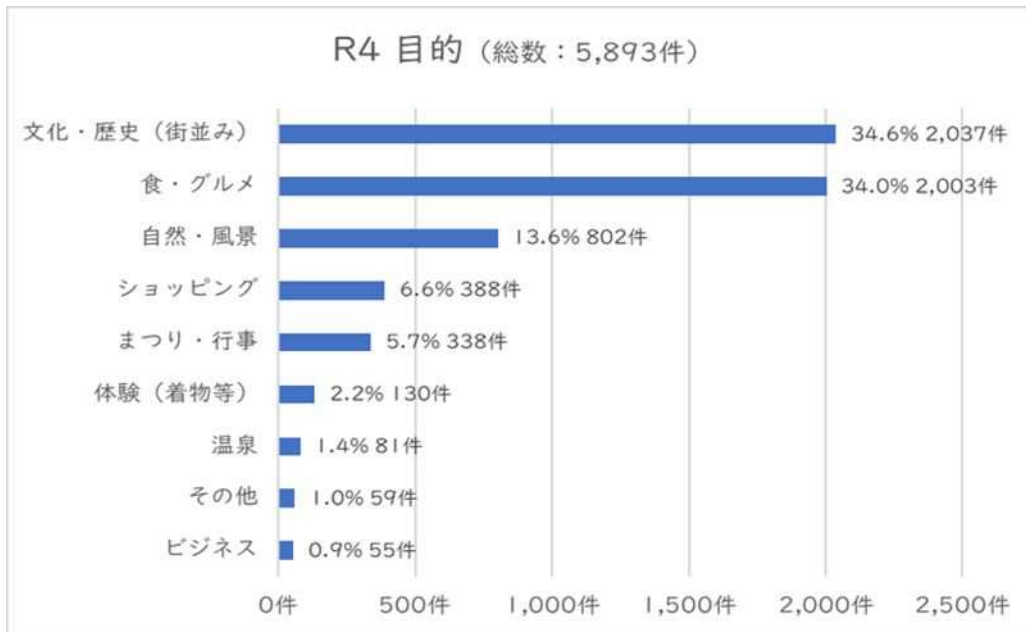
※ 令和4年まで「60歳以上」となっていた項目を令和5年から「60歳代」と「70歳以上」に分割しました。

(4) 目的（複数回答可能）

回答件数は「町並み散策」が最も多く、全回答数の33.7%を占めました。それ以降は「食べ歩き」（22.5%）、「寺社参詣」（11.9%）、「店舗内飲食」（8.9%）となりました。



※ 「アウトドア活動」は質問時には「アウトドア活動（キャンプ、BBQ、サイクリング、ウォーキングなど）」となっています。

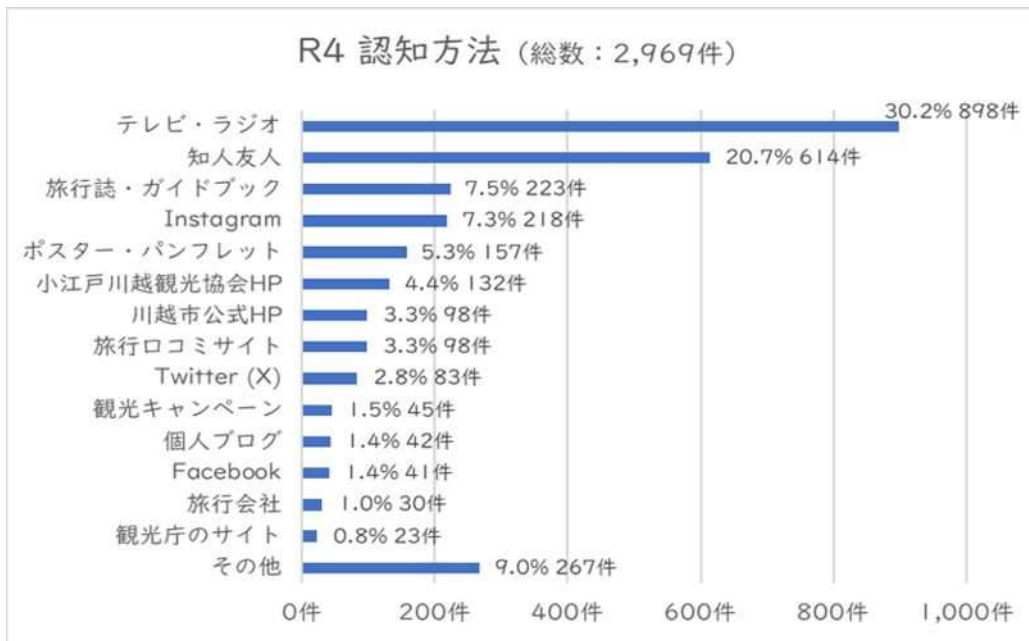
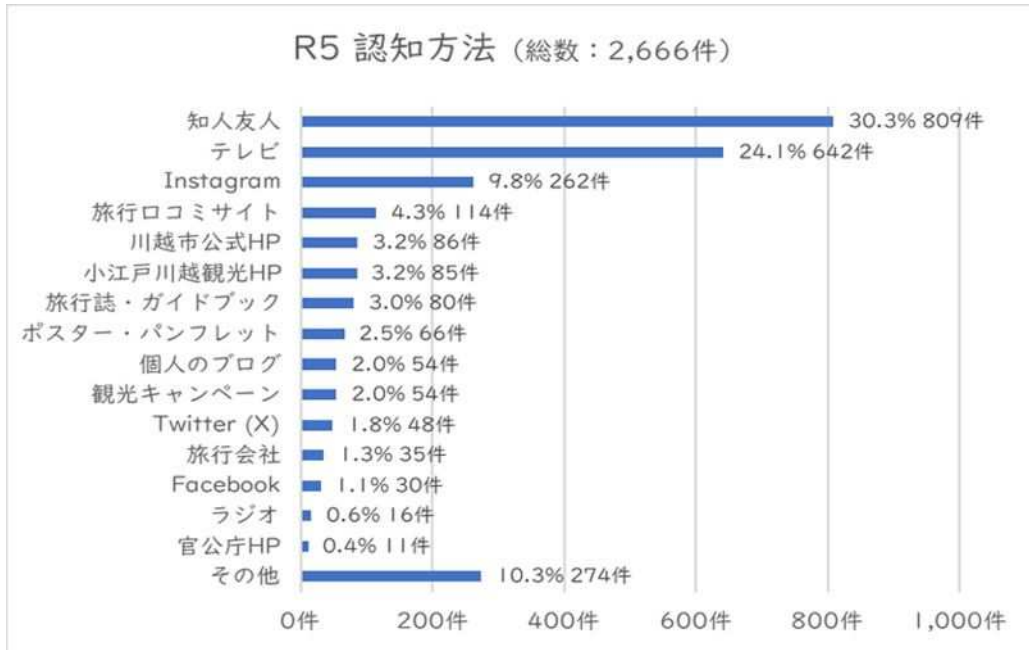


※ 令和5年からより細かなニーズを把握できるように目的の区分を細分化しました。

(5) 認知方法

令和4年では「テレビ・ラジオ」からの認知が最も多かったところ、令和5年では「知人友人」からの認知が最も多くなりました。

SNS（Facebook、Instagram、X(旧Twitter)）のなかではInstagramが最も多くなりました。

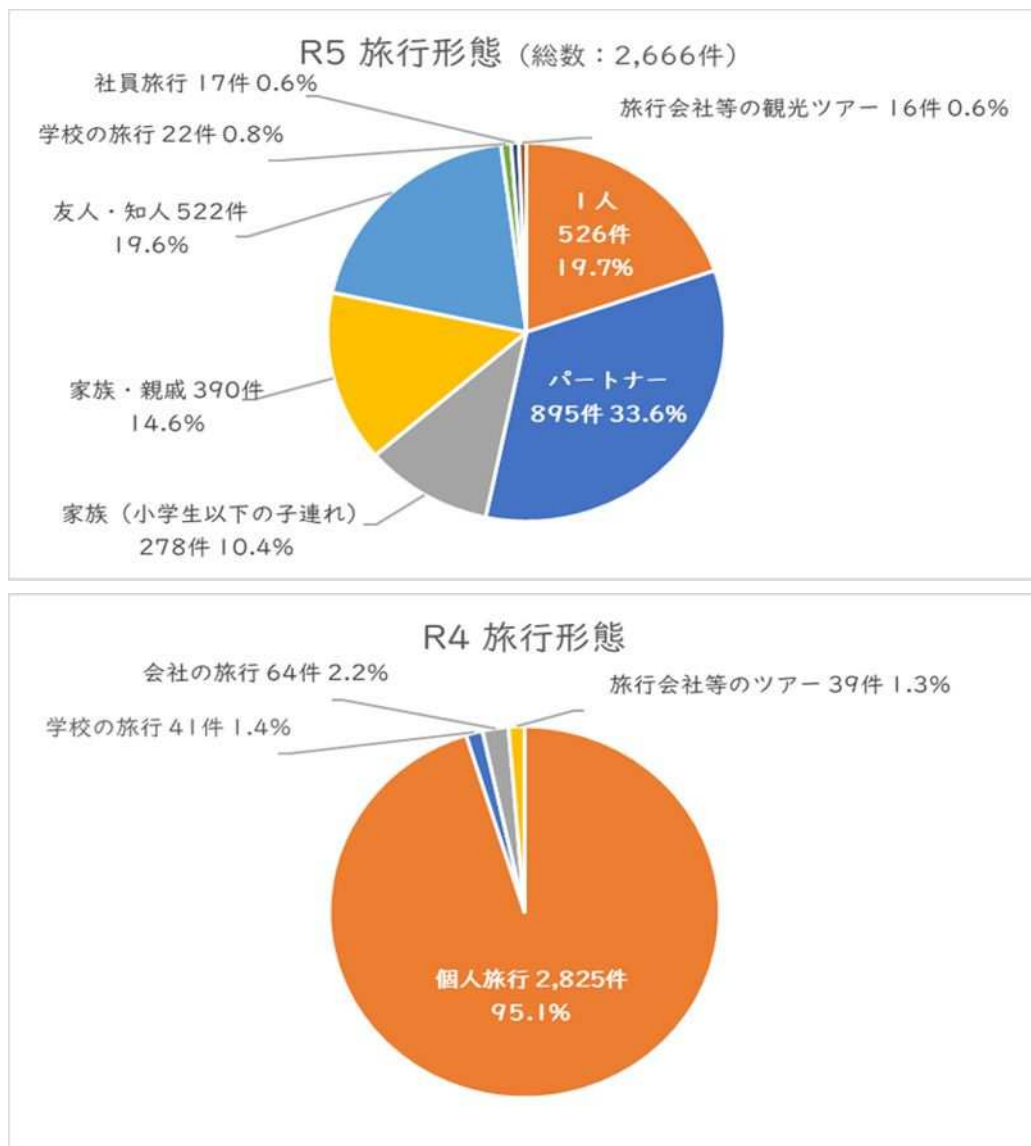


※ 令和4年まで「テレビ・ラジオ」となっていた項目を令和5年から「テレビ」と「ラジオ」に分割しました。

(6) 旅行形態

令和4年では95.1%を占めていた個人旅行の割合※1が、令和5年では97.9%と更に増加しました。※2

割合としては「パートナー（配偶者・カップル）」が33.6%と最も多く、次いで「1人」と「知人・友人」がほぼ同率となりました。



※1 令和5年から「個人旅行」の項目を細分化しました。

※2 令和5年の個人旅行は「一人」・「パートナー」、「家族（子連れ）」、「家族・親戚」、「知人・友人」の合計値としています。

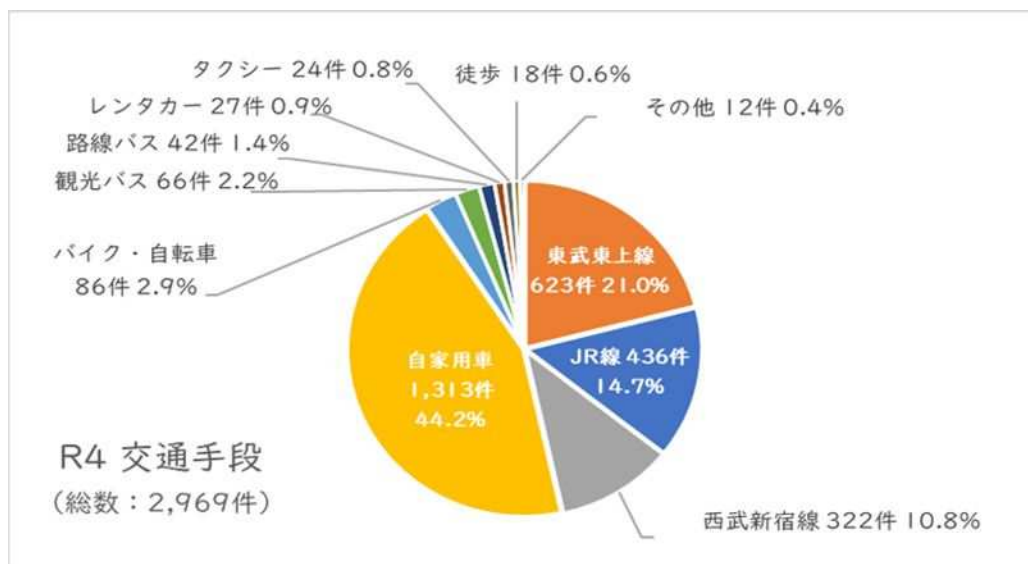
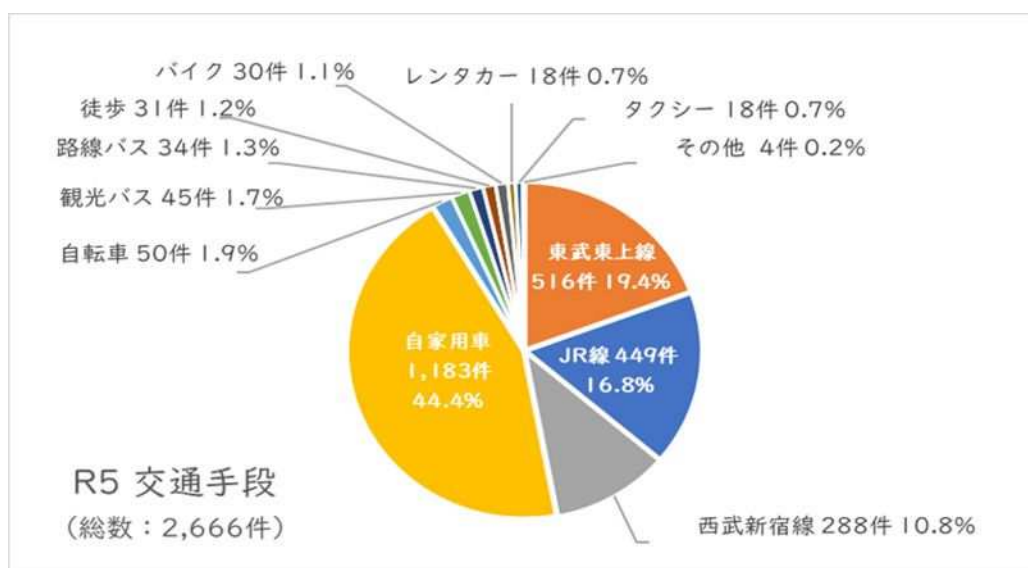
(7) 交通手段

鉄道利用者が全体の47%と約半分を占め、次いで多い自家用車と合わせると90%以上となりました。

鉄道利用者の割合（東武東上線、JR線、西武新宿線の合算）も自家用車利用者の割合も、令和4年から大きな変動はありませんでした。

鉄道利用者：令和4年46.5% → 令和5年47.0%

自家用車利用者：令和4年44.2% → 令和5年44.4%



※ 令和4年まで「バイク・自転車」となっていた項目を、令和5年から「バイク」と「自転車」に分割しました。

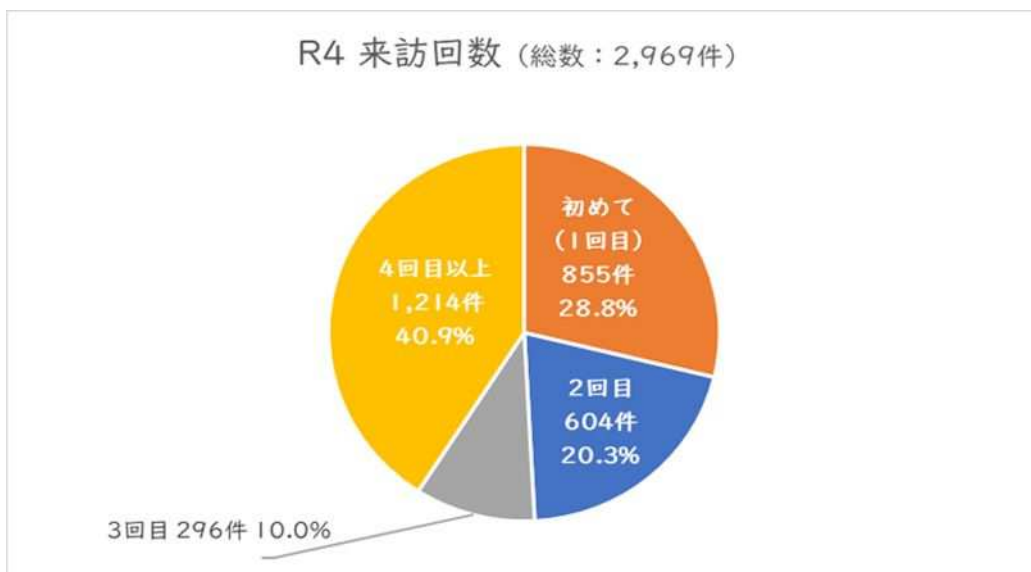
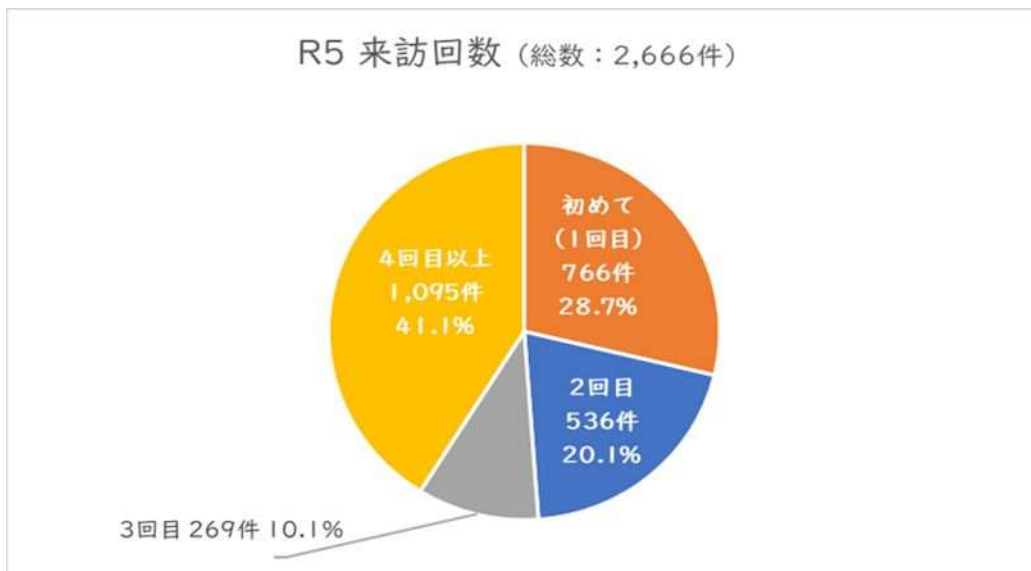
(8) 来訪回数

令和4年と同様に、来訪回数「4回以上」が最も多くなりました。

リピーター（来訪回数2回以上）の割合は、令和4年(71.2%)とほぼ同じ71.3%となりました。



※令和3年から調査方法を変更しています。

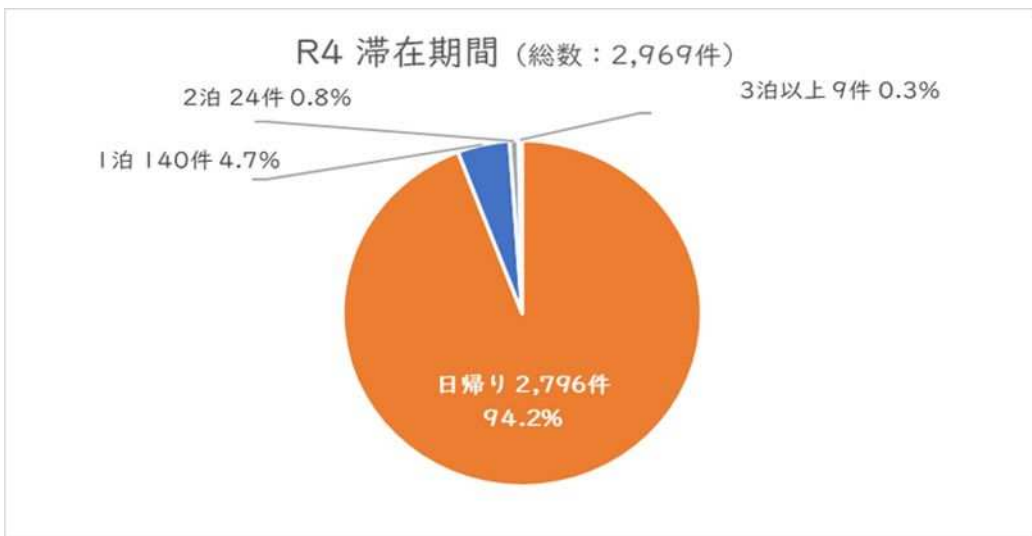
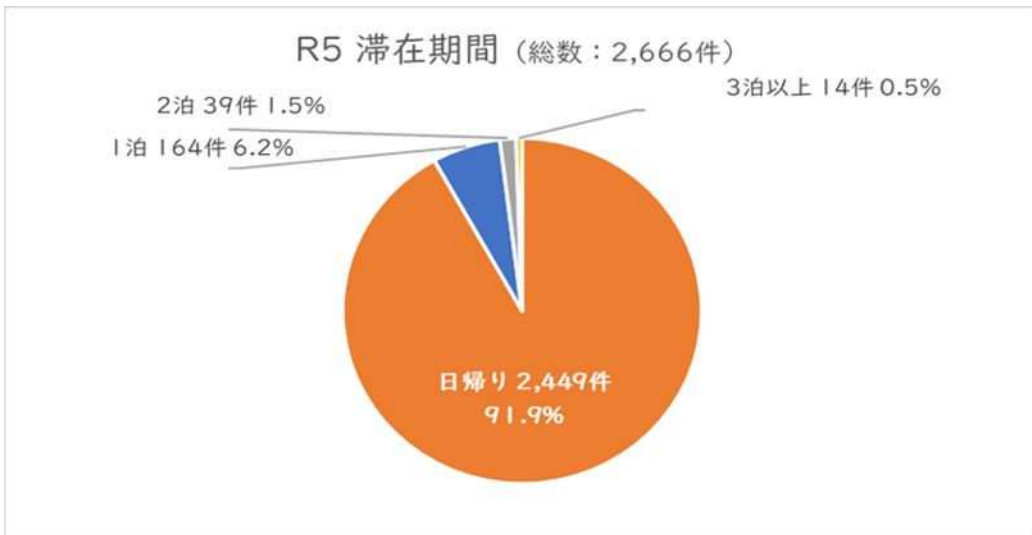


(9) 滞在期間

令和5年の全回答に占める宿泊者の割合は8.1%と、令和4年の5.8%から2.3ポイントの増加となり、コロナ禍前（令和元年）の割合よりも増加しました。

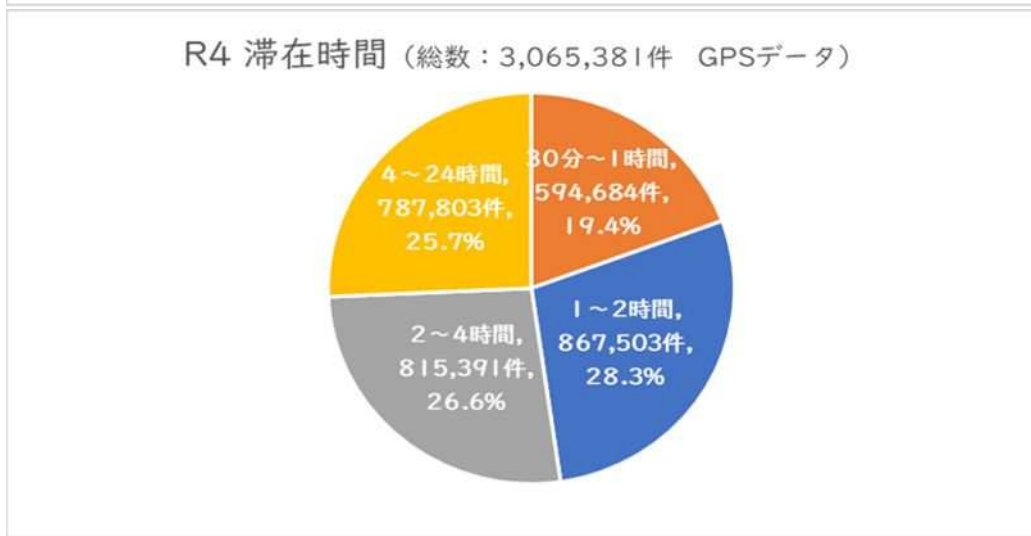
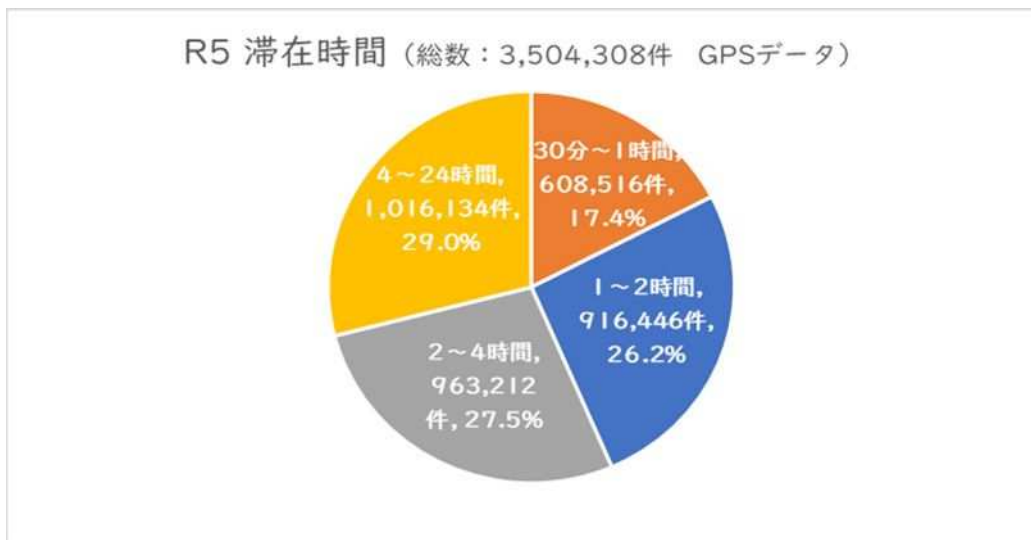


※令和3年から調査方法を変更しています。



(10) 観光時間

一番街周辺、氷川神社周辺、喜多院周辺、伊佐沼周辺の4エリアに滞在した時間を調査した結果、30分から2時間までの滞在時間の割合が減少し、2時間以上滞する人の割合が増加しました。



※ 令和3年からスマートフォン等の位置情報(GPS)を活用した集計方法に変更し、当該エリアに滞在した観光客(市内居住者・通勤者を除く)を集計しています。

(11) 立ち寄り観光地点 (複数回答可能)

令和4年と同様に一番街周辺エリアの「蔵造りの町並み」、「時の鐘」、「菓子屋横丁」の回答割合が高くなりましたが、立ち寄り割合自体は昨年に比べて減少しました。

なお一人当たりの平均訪問箇所数は令和4年から低下しています。



※令和3年から調査方法を変更しています。

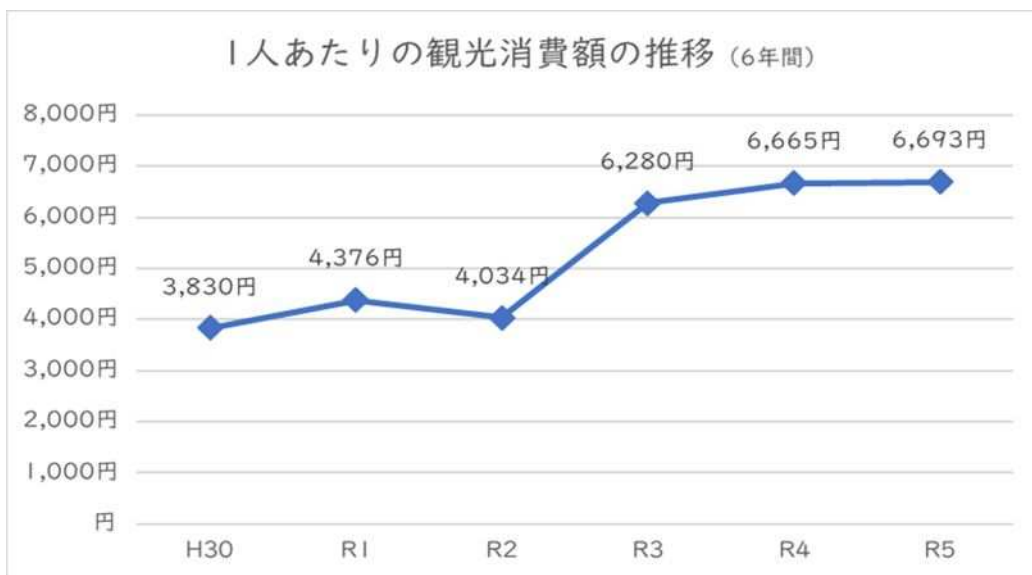


※エリア分け 【一】一番街エリア 【川氷】川越城跡・氷川神社エリア
【喜】喜多院エリア 【ク】クリアモールエリア

(12)-1 観光消費額 概要

| 項目 | 調査人数 | 令和5年 | | | 令和4年 |
|--------|-------|--------|---------|---------|--------|
| | | 日帰り客平均 | 宿泊客平均 | 全体平均 | 全体平均 |
| 交通費 | 899人 | ¥1,056 | ¥1,615 | ¥1,095 | ¥1,694 |
| 宿泊費 | 159人 | - | ¥11,513 | ¥11,513 | ¥8,293 |
| 飲食費 | 2474人 | ¥4,230 | ¥7,303 | ¥4,433 | ¥3,414 |
| お土産購入費 | 1432人 | ¥2,220 | ¥2,895 | ¥2,289 | ¥2,278 |
| 入館・入場料 | 442人 | ¥986 | ¥1,180 | ¥1,003 | ¥932 |
| 体験 | 132人 | ¥1,486 | ¥1,825 | ¥1,527 | ¥3,294 |
| その他 | 147人 | ¥1,850 | ¥5,145 | ¥2,189 | ¥3,117 |
| 全項目 | | ¥6,107 | ¥19,596 | ¥6,693 | ¥6,665 |

※ 外れ値を取り除くため令和5年から算出方法を変更し、回答額の上位10%と下位10%(計20%)の回答を除いた中間項の平均値で算出しています。



※令和3年から調査方法を変更しています。

(12)-2 観光消費額 項目別

■川越市内での交通費

一人当たりの平均交通費 1,095円

全有効回答数2,666件に対する支出した人の割合 33.7%

■川越市内での宿泊費

一人当たりの平均宿泊費 11,513円

全有効回答数2,666件に対する支出した人の割合 6.0%

■川越市内での飲食費

一人当たりの平均飲食費 4,433円

朝食 1,451円

昼食 2,099円

夜食 2,964円

喫茶軽食 1,191円

食べ歩き 1,287円

全有効回答数2,666件に対する支出した人の割合

朝16.4%、昼75.8%、夜27.2%、喫茶軽食52.3%、食べ歩き70.0%

■お土産購入費

一人当たりの平均お土産購入費 2,289円

全有効回答数2,666件に対する支出した人の割合 53.7%

■入館料・入場料

一人当たりの平均入館料・入場料 1,003円

全有効回答数2,666件に対する支出した人の割合 16.6%

■体験料（自然体験・文化体験）

一人当たりの平均体験料 1,527円

全有効回答数2,666件に対する支出した人の割合 5.0%

(12)-3 観光消費額 経済効果試算

令和5年の観光消費総額は

440.12億円（平均消費額 6,693円 × 入込観光客数 6,576,000人）

令和4年の367.17億円から72.95億円増加となり、前年比120%となりました。

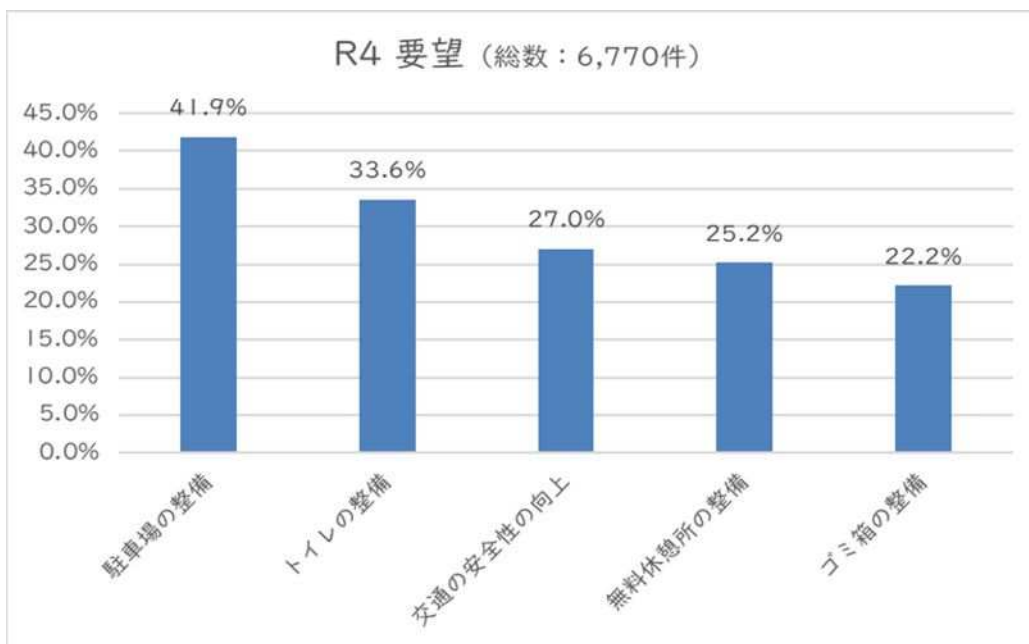
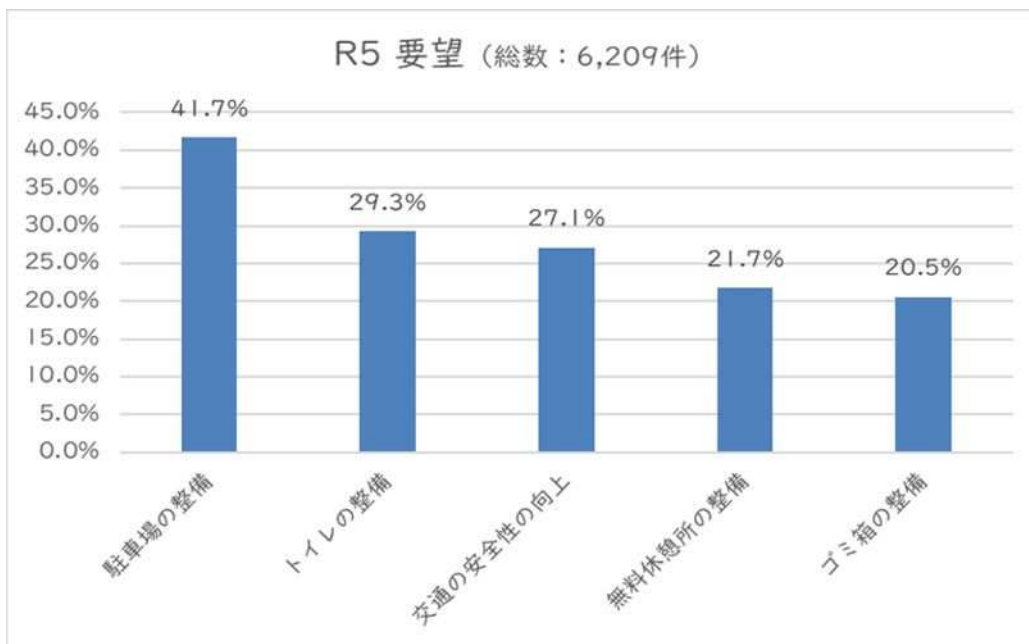


※令和3年から調査方法を変更しています。

(13) 観光客からの要望（複数回答可能）

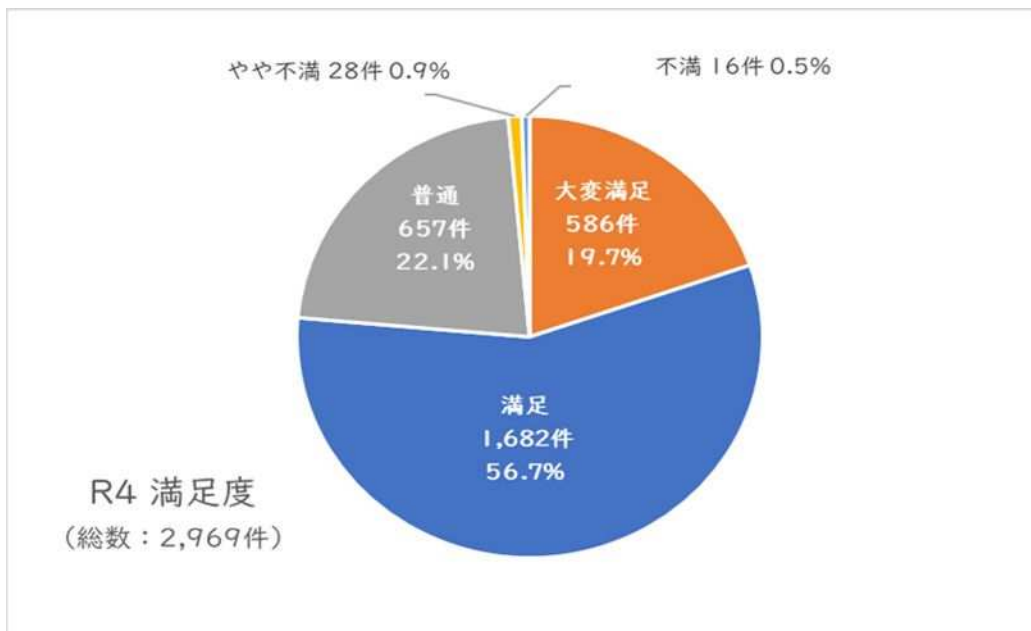
令和4年から上位を占める項目やその順位に変動はありませんでした。

「駐車場の整備」は令和4年から0.2ポイントの微減、「トイレの整備」は4.3ポイントの減少、「交通の安全性の向上」は0.1ポイントの微増、「無料休憩所の整備」は3.5ポイントの減少、「ゴミ箱の整備」は1.7ポイントの減少となりました。



(14) 満足度

「大変満足」と「満足」の合計が76.6%と、令和4年の76.4%から0.2ポイント増加しました。



※ 設問の対称性の観点から、令和5年から選択肢の文言を一部変更しました。
R4「やや不満」 → R5「不満」
R4「不満」 → R5「大変不満」

II 資料編

令和5年川越市入込観光客数（国内観光客）の概要

入込観光客数 657万6千人

新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行されたことを受けて、国内旅行者の観光入込客数は令和4年に比べて約120%となりました。
コロナ前である令和元年（2019年）の観光入込客数744万4千人に比べると88.3%となっており、コロナ前の水準に戻りつつあります。



令和5年川越市入込観光客数（外国人観光客）の概要

入込観光客数 61万5千人

令和4年10月に海外からの入国者数制限が撤廃されたことや、令和5年4月にすべての入国者に求めている陰性証明書等の提出を不要にするなど水際対策が撤廃されたことを受けて、令和4年比621.2%と大幅な増加となりました。



令和5年調査のまとめおよび分析

(1) 観光客数の動向について

令和4年10月に入国者数制限撤廃、令和5年4月に水際対策の撤廃等を受けて、新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日から5類感染症に移行されたことで、国内・海外ともに観光客が増加する結果となりました。

特に外国人観光客数は令和4年比で約6倍、コロナ前の令和元年比でも約2倍と大幅な増加となっています。

なお、外国人観光客の大幅な増加についてはJNTO日本政府観光局が公表している令和5年訪日外客数推計値（令和6年1月17日発表）でも令和4年比約5.5倍となっていることから、川越特有ではなく全国的な傾向であることが伺えます。

(2) 観光客の出発地について

調査方法を一部変更したため一概に比較はできませんが、令和4年から5年にかけて埼玉県内からの旅行者の割合が減少する傾向となりました。これは令和3年から継続した傾向となっており、コロナ禍によるマイクロツーリズム指向が緩和されていることが伺えます。

(3) 観光客の観光目的について

令和5年から回答の選択肢を細分化した結果、令和4年まで「文化・歴史（町並み）」と回答されていた中でも特に「町並み散策」（全回答数の33.7%）を目的とする観光客が多いことや、令和4年まで「食・グルメ」と回答されていた中でも「食べ歩き」（全回答数の22.5%）を目的とする観光客が多いことがわかりました。

(4) 認知方法について

令和5年では「友人知人」の回答（30.3%）が「テレビ」・「ラジオ」（合計24.7%）を上回りました。

インターネットを介した情報収集手段のうち、SNS(Instagram, X, Facebook)の合計は12.7%と令和4年の11.5%から増加した一方で、Webサイト（公式HPや口コミサイト）の合計は13.1%と令和4年の13.2%からほぼ横ばいとなっています。

全体としてテレビやラジオ、旅行誌・ガイドブック等の割合が減少する一方で、知人友人やSNS、旅行口コミサイト等の割合が増加していることから、認知する媒体がマスメディアからパーソナルメディアへ移行する傾向が伺えます。

(5) 滞在期間について

1泊以上の宿泊をした観光客の割合が令和5年では8.1%と、令和4年の5.8%から増加しました。その要因としては、コロナ禍が明けたことに伴ってマイクロツーリズム指向が緩和の傾向にあることが考えられます。

(6) 観光時間および立ち寄り観光地について

令和4年に比べて4時間以上滞在した人の割合が3.3%増加しました。

一方で一人当たりの立ち寄り観光地は令和4年の3.8箇所から3.6箇所に減少していることから、1か所により長時間滞在する傾向が強まった可能性があります。

(7) 観光消費額について

令和5年の観光消費総額（推計）は入込観光客数の増加を受けて440億円（昨年比120%）となりましたが、一人当たりの観光消費額は6,693円と、令和4年の6,665円に比べて28円の微増（0.4%増）となりました。

項目ごとでは宿泊費・飲食費が令和4年の平均から1,000円以上増加しているのに対して、お土産購入費や入館・入場料は微増、交通費や体験費は減少となっており、特に体験費は令和4年の半分以下となりました。

なお総務省統計局が発表する令和5年消費者物価指数は令和4年比で3.2%上昇となっていることから、一人当たりの観光消費額の伸びが物価上昇に追いついていないことがわかります。